



農業景況DI 過去最高値を更新 設備投資の意欲も 高まり最高に

—2016年下半年 農業景況調査—

スーパーL資金などをご利用いただいている担い手農業者の皆さまを対象に、2016年下半年農業景況調査を行いました。結果概要をご紹介します。

そうです。

資金繰り安定で畜産好調

業種別では、二〇一五年に続き販売単価が好調なことから、酪農（北海道：五五・九↓五七・六、都府県：二九・三↓五二・二）、肉用牛（四八・五↓五〇・三）が高い水準を維持しています（図1）。また、養豚（四八・八↓二六・二）、採卵鶏（七二・〇↓四〇・八）、ブロイラー（五二・九↓二七・四）は販売単価の下落により収支が悪化しているものの、資金繰りは安定しており、DI値は高い水準を維持しました。

この他、販売単価の上昇や燃料価格などが低い水準で推移したことにより、施設野菜（二〇・三↓二六・三）や茶（▲五三・一↓一・一）、果樹（二・五↓二五・六）、施設花き（▲五・九↓一・八）の収支や資金繰りが改善し、DI値が上昇しました。とりわけ茶は品質が良かったことに加え、差別化商品やドリンク需要への対応がマッチしたことを背景に、通年調査としては、〇四年以来のプラス値となりました。露地野菜（二四・三↓一四・七）は天候不順により一部産地の生産量が減少したものの、市場単価が上昇し、全体としてDI値は横ばいで推移しました。

（七・六↓二五・五）が改善して、経営判断を明るいものにしたと言えます。

収支など改善、明るい経営判断

二〇一六年（一～二月）の農業全体の景況感を示す景況DIは、過去最高値だった一五年をさらに上回り（二六・八↓二〇・〇）、一九九六年の調査開始以来の最高値を更新しました（図1）。

多くの業種で販売価格が好調に推移したことに加え、燃油価格が低い水準で推移したことや配合飼料価格が下降基調で推移したことにより、販売単価DI（二三・一↓二六・二）、生産コストDI（▲四四・七↓▲一九・二）が大きく改善しました（図2）。

これらの結果、収支DI（二四・二↓一六・七）および資金繰りDI

図1 農業景況DI天気図

経営部門	2015年		2016年		2017年	
	実績		実績		通年見通し	
農業全体	16.8	↗	20.0	↘	8.7	
耕種	稲作(北海道)	20.1	↘	▲4.9	↘	▲11.8
	稲作(都府県)	▲3.8	↗	23.6	↘	4.9
	畑作	35.2	↘	▲17.6	↗	4.6
	露地野菜	14.3	→	14.7	↗	18.9
	施設野菜	20.3	↗	26.3	→	24.0
	茶	▲53.1	↗	11.1	↘	▲3.1
	果樹	11.5	↗	25.6	→	24.1
	施設花き	▲5.9	↗	11.8	↗	20.9
	きのこ	15.2	↘	1.1	↗	18.1
	畜産	酪農(北海道)	55.9	→	57.6	↘
酪農(都府県)		29.3	↗	52.2	↘	16.8
肉用牛		48.5	→	50.3	↘	1.9
養豚		48.8	↘	26.2	↘	6.2
採卵鶏		71.0	↘	40.8	↘	▲29.6
ブロイラー	51.9	↘	27.4	↘	16.2	

[DIの値とお天気マークの関係]

≧ 21 ≧ < 5 ≦ < 5 ≦ ≦ -5 < ≦ -20 < ≦ -50 <

※天気図の見方については、レポートの最後に記載

稲作は北海道(二〇・一)と都府県(▲三・八)で

明暗が分かれまし。全国的に豊作基調かつ販売単価が上昇した中、北海道は作況が低下したことに加え、高単価品種の価格が思うようには上がらなかったことが背景にあります。なお、畑作(三五・二)は七・六は台風被害などで収支や資金繰りが悪化し、DI値が大幅に低下しました。きのこ(一五・二)は供給過剰で販売単価が下落しDIが悪化しました。

見通しは畜産全業種で慎重に

二〇一七年の農業全体の景況DIの見通しは、一六年(二〇・〇)よりも一・三ポイント低下し八・七となりまし。素牛価格などの高値推移が見込まれる中、販売単価の先行きが不透明なことから、慎重な判断になったとみられます。業種別では一六年と比べ、特に酪農(北海道:五七・六、都府県:五二・二)、肉用牛(五〇・三)、養豚(二六・二)、採卵鶏(四〇・八)、ブロイラー(二七・四)と畜産分野の業種全てで大幅に悪化する見通しです。また、稲作(北海道:▲四・九、都府県:二・三)、茶(二・一)、果樹(二・一)や茶(二・一)も悪化する見通しです。

も悪化する見通しです。

一方、施設野菜(二六・三)は横ばい、畑作(▲一七・六)や露地野菜(二四・七)、施設花き(二・八)は改善の見通しです。

経営拡大や省力化投資の機運

二〇一七年の設備投資見込みDIは三・六と調査開始以来、最高値となりました。設備投資の検討内容について聞いたところ、「農業機械」が五八・八%と最多で、続いて「生産施設」三七・六%、「農地の取得」二七・〇%など生産関連が多くなっているのが特徴です(図3)。

中でも、稲作や露地野菜などは定期的な機械の更新が必要なため農業機械の割合が高く、畜産では畜舎の建設・整備など生産施設の割合が高くなっています。果樹は加工施設の割合が三五・六%と高く、六次産業化の動きを反映したものとみられます。

生産関連以外の項目では「雇用対策」が八・四%と高く、労働力問題への関心の高さがうかがえます。労働者不足を解消するため、宿泊施設を併設した農業用倉庫の建設など具体的な投資に関する声も寄せ

図2 収支DI、資金繰りDI、販売単価DI、生産コストDIの推移

	収支DI		資金繰りDI		販売単価DI		生産コストDI		
	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年	
農業全体	14.2	16.7	7.6	15.5	13.1	26.1	▲44.7	▲19.1	
耕種	稲作(北海道)	21.3	▲13.7	8.2	▲2.5	10.1	19.9	▲44.1	▲24.2
	稲作(都府県)	▲6.5	23.8	▲10.7	13.5	7.0	33.4	▲36.5	▲11.5
	畑作	33.9	▲24.7	19.9	▲3.3	▲15.4	▲3.5	▲63.7	▲32.6
	露地野菜	5.7	13.1	2.3	14.2	▲10.0	16.5	▲56.8	▲28.9
	施設野菜	15.3	20.3	16.0	19.8	▲0.6	26.0	▲41.0	▲26.5
	茶	▲52.4	8.1	▲41.3	4.3	▲59.4	▲1.3	▲30.1	▲11.1
	果樹	6.3	19.3	1.4	14.7	10.9	34.9	▲48.4	▲31.3
	施設花き	▲8.1	9.1	▲6.8	7.3	▲15.4	7.3	▲33.5	▲21.9
	きのこ	11.4	▲1.0	10.1	1.0	▲6.4	▲18.2	▲43.0	▲22.4
畜産	酪農(北海道)	55.5	57.0	39.2	45.7	85.9	79.3	▲46.4	▲4.9
	酪農(都府県)	25.4	48.4	26.5	42.1	61.7	50.7	▲46.6	▲0.7
	肉用牛	50.8	48.6	27.8	34.6	85.8	76.4	▲63.1	▲37.3
	養豚	50.2	19.1	45.0	32.4	26.9	▲15.1	▲17.7	16.9
	採卵鶏	63.0	44.8	56.0	44.8	74.0	▲12.0	▲32.0	11.2
ブロイラー	42.3	29.1	38.5	29.1	28.8	▲9.7	▲44.2	▲4.8	

られました。

景況が改善する中、設備投資による経営の拡大や喫緊の課題である労働力不足への対応といった動きが見られます。

次に、目的について聞きました(図4)。「省力化・生産効率化」50.6%、「規模(生産)拡大」45.4%、「設備更新」43.9%の三つに回答が集中しています。

一方、茶や果樹は「新技術導入」(茶:19.7%、果樹:21.3%)および「新たな商品の展開」(茶:21.7%、果樹:27.7%)の回答も多く、果樹であれば高糖度品種、茶ではうま味や甘みの強い製品というように、商品の差別化の展開が期待されます。

設備投資しない理由としては、「現状規模の維持」が79.0%と大半を占める一方で「後継者がいない」が17.3%といった切実な理由もあり、後継者対策に課題があると云えそうです(図5)。特に、酪農については「後継者がいない」22.6%、「必要な機能を外部に委託」13.5%との回答が多く、後継者不足による担い手の減少、労働力のアウトソーシングが進むと考えられます。

また、地域別では北海道で「後継者がいない」23.8%、「経営の逼

迫」17.9%、「外部に委託」10.6%が他地域より高くなっており、労働力や経営内容を理由としている点の特徴です。

今回ご紹介した内容を含む本調査結果に関する公表資料は、当公庫ホームページに掲載しております。
<http://www.jic.go.jp/n/findings/investigate.html#sec02>

(情報企画部 浅野 真宏)

【調査概要】

● 調査時点: 方法

二〇一七年一月・郵送調査

● 調査対象

スーパード資金/農業改良資金

融資金(計二万二〇二先)

● 有効回答数

七三七九先(回収率三三・四%)

【天気図の見方について】

● 天気図はD I (Diffusion Index) と呼ばれる指標により作成。

● アンケートの各項目への回答は、「①良くなった ②変わらない ③悪くなった」から一つ選ぶ形式となっております。D I は、前年と比較して「良くなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。

● D I 値に二・五以上の差異がある場合は、上向きまたは下向き矢印。二・四以内の場合は平行矢印。

図3 設備投資の検討内容

(複数回答可)		低 高 (%)										
	回答数	農地の取得	農地整備	農業機械	生産施設	選別・貯蔵施設	加工施設	販売施設	雇用対策	環境対策	再生エネルギー利用	その他
農業全体	3,776	27.0	23.5	58.8	37.6	14.0	4.6	2.6	8.4	6.6	2.8	6.4
稲作	1,436	29.5	25.1	71.9	24.2	18.2	3.3	2.0	6.1	1.0	1.7	4.9
畑作	339	25.5	24.0	58.8	48.9	2.2	2.5	1.8	9.8	20.9	5.8	6.2
露地野菜	317	32.4	36.0	74.6	24.8	11.2	1.5	0.0	5.0	1.2	0.6	3.2
施設野菜	274	32.2	26.5	64.4	25.2	17.0	5.4	1.6	11.0	1.3	2.2	6.3
茶	73	19.3	12.4	41.6	58.0	17.5	2.9	3.3	12.0	0.4	1.5	10.6
果樹	166	15.1	23.3	53.4	20.5	6.8	35.6	1.4	9.6	0.0	2.7	6.8
施設花き	88	24.7	39.8	36.7	28.3	22.9	13.3	10.8	9.6	0.6	4.8	9.0
きのこ	42	22.7	18.2	27.3	61.4	14.8	1.1	2.3	13.6	1.1	5.7	12.5
酪農	325	14.3	7.1	26.2	54.8	21.4	4.8	7.1	14.3	2.4	9.5	19.0
肉用牛	270	28.5	14.4	54.1	60.7	3.7	2.2	2.6	8.9	19.6	3.7	5.6
養豚	139	20.9	8.6	26.6	81.3	2.2	0.7	5.8	12.9	38.8	3.6	5.0
採卵鶏	76	9.2	5.3	17.1	69.7	13.2	9.2	6.6	7.9	43.4	2.6	9.2
ブロイラー	37	16.2	8.1	24.3	67.6	0.0	18.9	0.0	13.5	16.2	10.8	10.8

(注) 各項目の具体例

農業機械:トラクター、管理機など
 加工施設:野菜カット場、加工工場など
 環境対策:ふん尿処理など

生産施設:農舎、温室、畜舎など
 販売施設:直売所など
 再生エネルギー利用:太陽光、バイオマスなど

選別・貯蔵施設:選別所、調製施設など
 雇用対策:事務所、研修施設など

図4 設備投資の目的

(複数回答可)

低 高 (%)

	回答数	設備更新	省力化・生産効率化	新技術導入(新品種・生産方式など)	規模(生産)拡大	流通合理化(大ロット化など)	新たな商品の展開	法人化した(または予定している)	後継者の就農(または就農見込)	従業員の雇用	周辺環境の都市化に対応	その他
農業全体	3,717	43.9	50.6	13.5	45.4	3.5	6.4	4.7	10.2	10.8	2.2	5.1
稲作	1,413	47.3	51.1	14.4	45.7	3.8	5.2	5.3	9.6	7.7	1.3	4.6
畑作	328	45.4	60.1	14.6	37.8	1.8	4.0	4.0	10.1	5.5	0.9	5.2
露地野菜	311	35.0	50.8	13.2	50.2	5.8	6.8	6.1	11.9	17.7	1.9	5.5
施設野菜	274	37.2	40.5	13.5	49.3	4.7	8.0	5.5	9.9	17.5	1.1	5.8
茶	71	45.1	54.9	19.7	32.4	4.2	12.7	1.4	5.6	11.3	1.4	5.6
果樹	164	40.2	48.8	21.3	37.2	2.4	17.7	3.7	11.6	15.2	2.4	1.8
施設花き	87	34.5	42.5	13.8	41.4	5.7	9.2	3.4	11.5	14.9	0.0	8.0
きのこ	41	41.5	39.0	12.2	41.5	4.9	19.5	2.4	9.8	19.5	4.9	4.9
酪農	319	44.5	55.5	11.3	38.9	0.9	3.8	4.7	12.5	11.3	3.4	3.8
肉用牛	265	36.6	45.3	5.7	59.6	1.1	3.0	5.3	13.2	12.1	2.6	4.2
養豚	139	51.8	52.5	13.7	55.4	4.3	2.9	2.2	3.6	10.8	11.5	4.3
採卵鶏	76	61.8	46.1	11.8	25.0	6.6	6.6	1.3	2.6	10.5	7.9	10.5
ブロイラー	37	43.2	51.4	2.7	43.2	0.0	2.7	8.1	10.8	5.4	2.7	13.5

図5 設備投資しない理由

(複数回答可)

低 高 (%)

	回答数	現状規模の維持	経営規模の縮小	必要な機能を外部に委託	経営の逼迫	後継者がいない	周辺環境の都市化	その他
農業全体	3,135	79.0	4.6	6.5	12.7	17.3	1.3	12.6
稲作	1,192	77.4	3.9	8.7	14.8	18.3	1.4	14.7
畑作	259	76.1	1.5	8.5	24.3	20.8	1.2	9.3
露地野菜	273	76.6	5.5	4.0	12.1	17.9	1.5	15.0
施設野菜	283	85.2	3.2	4.6	4.6	14.8	1.8	10.2
茶	75	81.3	2.7	5.3	25.3	10.7	0.0	6.7
果樹	179	80.4	7.8	2.2	11.7	14.5	0.6	12.3
施設花き	120	85.0	4.2	1.7	11.7	13.3	0.0	10.8
きのこ	43	86.0	4.7	0.0	16.3	11.6	0.0	11.6
酪農	222	78.4	5.9	13.5	8.1	21.6	1.4	9.0
肉用牛	179	80.4	5.6	2.8	5.0	12.3	1.1	12.3
養豚	73	74.0	4.1	1.4	4.1	16.4	8.2	16.4
採卵鶏	43	81.4	9.3	2.3	7.0	9.3	2.3	14.0
ブロイラー	21	90.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
北海道	934	78.8	3.6	10.6	17.9	23.8	0.2	10.7
東北	526	78.7	4.8	7.6	9.9	15.8	1.1	13.1
関東	462	79.2	4.8	3.0	11.5	13.6	1.5	11.7
北陸	253	74.7	7.1	3.6	11.5	13.4	2.4	22.1
東海	137	79.6	3.6	2.2	8.0	15.3	4.4	8.8
近畿	163	80.4	3.1	4.9	11.0	11.0	3.1	16.0
中国・四国	244	80.7	3.7	4.5	9.8	13.1	1.2	12.3
九州	416	80.3	6.0	5.0	10.3	16.3	1.7	11.3